

# 出雲駅伝

2年ぶり  
2回目

第17回出雲全日本大学選抜駅伝競走  
2005.10.10



総合11位 2時間12分02秒

10月10日、島根県大社町の出雲大社から出雲市の出雲ドームまでのコース(6区間=44.0km)で21チームが出場して開催された。中央学院大学にとって2年ぶり2回目の出場となる出雲駅伝は、短い距離をつなぐスピード駅伝という特徴がある。今大会も予想通り、順位が激しく入れ替わるレース展開となった。本学では、シーズン始めのこの駅伝を「下級生の経験の場として、順位よりも駅伝の雰囲気をつかむことが目的」と位置づけている。今大会は下級生に故障者が出たため、上級生を交えたオーダーで臨んだ。レースでは、1区を走った1年生の木原君が期待通りの走りを見せ区間7位と健闘。総合順位は11位という結果となったが、順位以上の収穫が得られた大会だったといえるだろう。

区間	選手名	記録(区間順位)
1区(8.0km)	木原 真佐人 選手部1年	23'56" (7位)
2区(5.8km)	信田 雄一 選手部4年	17'10" (8位)
3区(8.5km)	杉本 芳規 選手部4年	25'50" (11位)
4区(6.5km)	大内 陽介 選手部2年	18'36" (7位)
5区(5.0km)	江藤 裕也 選手部4年	14'40" (6位)
6区(10.2km)	篠藤 淳 選手部2年	31'50" (12位)

# 全日本駅伝

3年連続  
3回目

秩父宮賜杯第37回全日本大学駅伝対抗選手権大会  
2005.11.6



総合9位 5時間25分04秒

11月6日、愛知県名古屋市の熱田神宮をスタートし、三重県伊勢市の伊勢神宮までのコース(8区間=106.8km)で開催され、全国8地区の学連代表25校が熱戦を繰り広げた。全日本大学駅伝は3年連続3回目の出場となり、本学ではこの大会を「仮想箱根駅伝」として重視。1区間が箱根駅伝の3分の2ほどの距離ながら、本番を想定したオーダーを組み、各選手が本番と同じペースで走れるかどうかをみている。レースでは、1区木原君が区間8位。その後順位を上げ、3区は杉本君が区間3位、4区は篠藤君が区間4位の走りで強豪校と十分戦える力があることを示した。その後、7区まで4位をキープし続け、総合順位は9位とシード権獲得に至らなかったが、中央学院大学の名を全国に知らしめる内容だった。今年も6月の関東地区の予選会を突破して、ぜひとも参加したい大会である。

区間	選手名	記録(区間順位)
1区(14.6km)	木原 真佐人 選手部1年	43'58" (8位)
2区(13.2km)	信田 雄一 選手部2年	38'55" (5位)
3区(9.5km)	杉本 芳規 選手部4年	27'37" (3位)
4区(14.0km)	篠藤 淳 選手部2年	41'23" (4位)
5区(11.6km)	江藤 裕也 選手部4年	35'00" (5位)
6区(12.3km)	木村 聡寿 選手部2年	37'53" (9位)
7区(11.9km)	天野 達也 選手部3年	36'49" (9位)
8区(19.7km)	大内 陽介 選手部2年	1:03'29" (13位)



学長  
大久保 皓生

—— 谷底から這い上がる努力こそが尊い ——

選手諸君、本当にご苦労さまでした。この1年間、諸君が努力されてきたことを誇りに感じております。木原君、杉本君、区間賞おめでとう。テレビ中継で、解説の瀬古氏が「この区間賞で中央学院は来年に繋がった」とコメントしておりましたが、私もその通りだと思います。スポーツも、人生も、山あり谷あり。重要なのは、苦しい時をいかに乗り越えるか、であります。「私は何度も谷に落ちたが、いつも這い上がってきた。それを誇りに思う」。これは、アメリカの大リーグ選手・スタン・ミュージアルが殿堂入りの時に語った言葉です。この言葉を諸君に捧げて、今後への激励の言葉としたいと思います。最後にこれまでご尽力されてきた部長・監督・コーチ陣をはじめ、応援してくださった父母・卒業生・在学生の方々、さらには地元の皆様にも、心よりお礼申し上げます。



陸上競技部 部長  
小林 敬和

—— 学生達を支えてくれたご声援に感謝 ——

箱根駅伝は、関東の大学対抗駅伝であるにもかかわらず、2日間で延べ100万人と言われる沿道の方々、そして、テレビを通じて応援して下さる全国の方々の目に触れる国民的行事となっています。このような大舞台で走ることができ喜びは、何ものにも代えられぬほど大きなものです。ここまでたどり着けたのは、選手諸君の努力もさることながら、保護者や同窓生の方々、学校関係者、地域の皆様のご支援の賜物に違いありません。試合では多くの学生たち、吹奏楽団、応援部チアリーディングクラブなどの諸君も一丸となって応援してくれました。彼らもまた、日々の学習やクラブ活動に精一杯取り組んでおります。関係者の皆様方には、彼らに対しても今後とも、我々陸上競技部同様、ご声援いただければと思います。



陸上競技部 監督  
川崎 勇二

—— 新しいチームとして再び箱根路に臨む ——

今回の結果は、正直申しまして、残念に感じております。しかし事実は事実として厳粛に受け止めています。私を含め、今のチーム内には、何か、奢りや甘えのようなものが入り込む隙があったのかもしれない。近年、箱根駅伝は予断を許さない厳しいレースになっています。今回の優勝校を見ても、この結果を予想していた人が、果たして何人いたでしょうか。これを考えれば、次回、我々が上位入賞する可能性を否定することは出来ないはず。ただし、少なくとも今のままでは、予選通過すら危ういのが現実です。悪い流れは一日も早く断ち切って新しいチームとして出直し、来年は再び上位で戦うことを目指して箱根駅伝の舞台に立ちたいと思います。ご声援いただいた皆様に、心から御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

## 中央学院大学陸上競技部 選手リスト

選手名	学部	出身地	出身高校	選手名	学部	出身地	出身高校	
<b>4年</b> 主将 副将 寮長 主務	江藤 裕也 信田 雄一 杉本 芳規 千葉 敬弘 藤山 浩司 梅田 将一	商学部 商学部 商学部 商学部 商学部 商学部	兵庫県 千葉県 兵庫県 栃木県 兵庫県 栃木県	報徳学園高等学校 拓大紅陵高等学校 兵庫工業高等学校 那須拓陽高等学校 神港学園高等学校 那須拓陽高等学校	中川 健太郎 白石 匠 森崎 祐太郎 佐治 弘樹 本橋 佑哉 高田 歩	商学部 商学部 商学部 商学部 法学部 法学部	福井県 千葉県 兵庫県 兵庫県 千葉県 栃木県	美方高等学校 中央学院高等学校 明石南高等学校 須磨友が丘高等学校 安房高等学校 作新学院高等学校
<b>3年</b>	天野 達也 田中 康二 井上 正之 大聖 隆紀 高山 拓郎 各和 芳幸 大分 剛士 池田 智計 星野 雄介	商学部 商学部 商学部 商学部 商学部 商学部 商学部 商学部 法学部	兵庫県 広島県 愛媛県 埼玉県 大分県 栃木県 大分県 兵庫県 神奈川県	報徳学園高等学校 如水館高等学校 八幡浜高等学校 飯能高等学校 竹田高等学校 作新学院高等学校 大分商業高等学校 須磨友が丘高等学校 市立横須賀高等学校	<b>1年</b> 木原 真佐人 土居 太 染谷 朋弘 渡部 政彦 堀 宏和 横谷 祐希 小田部 巧 辻 茂樹 林 将幸 今井 達弥 中澤 真仁 中澤 徹哉 池脇 信也 寺田 啓志 大田 圭将	商学部 商学部 商学部 商学部 商学部 商学部 商学部 商学部 商学部 商学部 商学部 商学部 商学部	兵庫県 富山県 千葉県 大分県 宮城県 長野県 千葉県 大阪府 栃木県 山形県 京都府 兵庫県 鹿児島県 茨城県 兵庫県	報徳学園高等学校 高岡向陵高等学校 沼南高等学校 竹田高等学校 利府高等学校 松代高等学校 拓大紅陵高等学校 北陽高等学校 作新学院高等学校 東海大山形高等学校 洛南高等学校 姫路商業高等学校 鹿児島実業高等学校 水城高等学校 近畿大学附属豊岡高等学校
<b>2年</b>	篠藤 淳 細田 祐司 前澤 賢 大内 陽介 池田 政輝 木村 聡寿 松浦 貴之 高村 倭次 伊藤 達志 深沢 達也 木原 好隆	商学部 法学部 法学部 商学部 商学部 商学部 商学部 法学部 法学部 商学部 商学部	兵庫県 愛知県 栃木県 茨城県 兵庫県 愛知県 兵庫県 神奈川県 栃木県 群馬県 埼玉県	飾屋工業高等学校 愛知工業大学名電高等学校 茂木高等学校 水城高等学校 姫路商業高等学校 豊川高等学校 伊川谷高等学校 秦野高等学校 那須拓陽高等学校 桐生工業高等学校 松山高等学校	指導スタッフ 部長 小林 敬和 監督 川崎 勇二 コーチ 尾上 岳史 コーチ 町田 次雄 コーチ 青木 栄	中央学院大学法学部教授 中央学院大学法学部助教授 中央学院大学駅伝コーチ HONDA JAL AGS		

中央学院大学 | 〒270-1196 千葉県我孫子市久寺家451 TEL: 04-7183-6501(代)  
http://www.cgu.ac.jp/

An Direction & Design: D-ROOM / Photographer: TERUAKI TAKAHASHI, AKIHITO FUJIKAKE, TAKAMORI ITO (CHUOGAKUIN UNIVERSITY)・HIROYUKI YOSHIDA (CGU OB)・SHU ITO & HITOSHI MASUDA  
Writer: TOSHIKI TAKAHASHI (Y'S OFFICE) / Coordinator: MIE TSUKAMOTO (TOKYO HEIHAN Co., Ltd.) / Printing: TOKYO HEIHAN Co., Ltd.



# 学生三大駅伝出場

出雲駅伝・全日本大学駅伝・箱根駅伝



ご声援、ありがとうございました!!



## よりたくましいチームへの成長を期して

陸上競技部コーチ 尾上 岳史

全員が区間10位以内で走って昨年以上の順位を狙う、というのが今年のチーム目標でした。20数年前にゼロからスタートして、昨年、3年連続出場を果たし、順位も着実に上げてきた我々にとって、シード権以上の順位は、必然的な目指すべき目標だったのです。しかし、それが「10位以内は入って当たり前」という感覚に繋がりが、隙が生まれたのかもしれない。飛び抜けた選手がいなくても、全員がそつなく、ムラなく、各自の力を最大限に発揮して襷を繋いでいく。そして、控えのメンバーも含め、全員が気持ち一つにすることで、勝利を獲得してきたのです。しかし今大会は、2つの区間賞を獲得しながら、勝利に結びつかないという、まったくうちのチームらしくない展開となってしまいました。レース後に監督は、「部全体の雰囲気の問題があったの

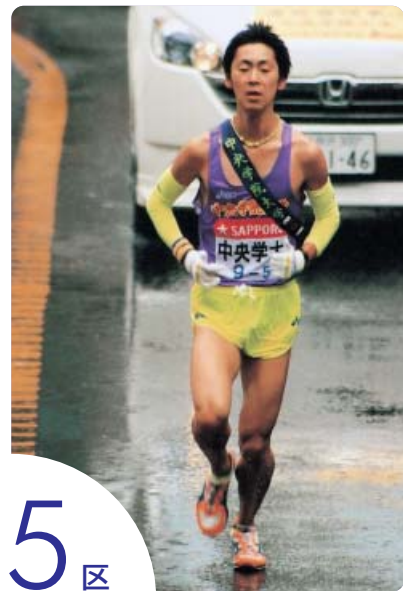
かもしれない。悪い流れは早期に断ち切って新しいチームとして蘇ろう」と選手に語りました。その言葉の通り、今回の結果を教訓とし、これまで以上にたくましいチームへ成長して、まずは10月の予選会を突破し、そして来年、再び箱根で上位を目指したいと思います。

## 来年も残る駅伝経験者に期待したい

主務 千葉 敬弘 (商学部4年)

主務として、選手のフォームチェックから生活面まで気を配り、「言うからには自分も」と自らのだらしない面も排除するよう努めてきました。この1年、チームのトラックでのタイムは上がってきており、とてもよい仕上がりになっていました。それだけに、結果に対しては残念な思いを否めません。しかし、前回走ったメンバーも含むと、多くの経験者が来年も在籍しています。卒業していく4年生の分も頑張してほしいと思います。

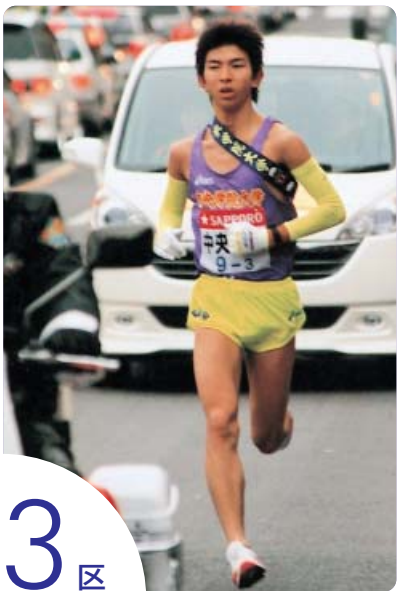




**5区**  
伊藤 達志 法学部2年  
最後まで諦めなかったのは声援のおかげ  
今年から距離の伸びた大切な5区を、昨年に引き続き走らせてもらう以上は、復路につなげられるような踏ん張りを見せたいと挑みました。しかし、2年連続でコース取りを間違ってしまうミスで、時間をロスする結果となってしまいました。ただ、チームのみんなと力を合わせる駅伝であり、沿道の声援が励みとなったことで、最後まで諦めずに走ることができました。もっと自分を鍛え直し、何としても10月の予選会を突破し、5区を走れるよう日々の練習に励みます。



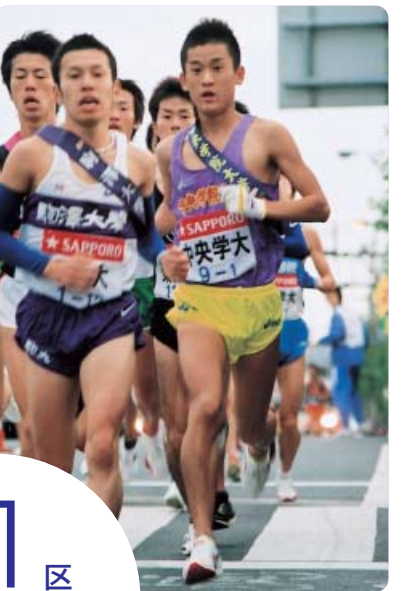
**4区**  
松浦 貴之 商学部2年  
沿道の声援を支えに走り抜いた  
初めて経験する大学駅伝だったので、とにかく自分の走りをする以外ないと思っていました。でも、思うようにペースがさがらず、途中、無理に追いつけたのがたまたま、後半は疲労との戦いになってしまいました。それでも、沿道から聞こえてくる、「松浦、松浦」という声援が励みとなり、最後まで「なんとかしなければ」という気持ちだけは失わずに走り抜くことができました。今回のことを教訓に、来年は3年生としてチームを引っ張ってける存在になりたいと思います。



**3区**  
木村 聡寿 商学部2年  
一からやり直し、来年こそはリベンジ  
今回の箱根駅伝でのチーム目標を達成するために、一桁の順位で襷を渡すことが個人の目標でした。しかし、比較的平坦で走りやすい区間にもかかわらず、中盤からペースが落ちていったのは、自分の精神的な弱さが出た結果でした。苦しくはなかったのですが、足が動かなくなってしまったのです。4年生の先輩達にとっては最後の大会なのに、自分自身が満足できる走りができず、申し訳なく共に悔いが残ります。一からやり直し、来年はリベンジしたいです。



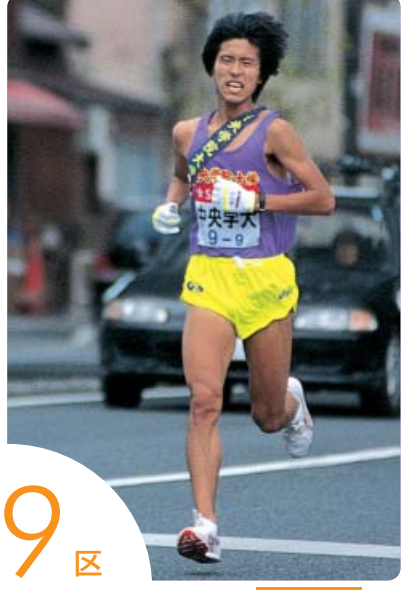
**2区**  
信田 雄一 副将 商学部4年  
挑戦し続けることで後輩にエールを  
華の2区を任せられたプレッシャーは、予想以上に大きいものでした。木原が素晴らしい走りをしてくれたので、好順位で次へ繋げなければ、と思ったのですが、緊張で固くなってしまいました。15km付近では上位集団で粘ることだけを考えていました。権太坂を上げれば、下りで挽回できると思ったからです。しかし、最後は余力が尽きてしまいました。卒業後は実業団で走ります。自分が挑戦を続けることで、後輩たちに「再び箱根を目指せ」というエールを送りたいと思います。



**1区**  
木原 真佐人 商学部1年  
気負いなく臨んだ初めての箱根駅伝  
中学時代から憧れ、目標としてきた箱根駅伝でしたが、気負いなく臨むことができました。中盤はグループの後方でためて、ピッチで走ることを意識し、思うような走りができました。区間賞は自分の走りができたことに対して、おまけとしてついてきたのだと思います。ただ、ラストはキレがあまり良くありませんでした。そのため、チームの流れを押し上げることができなかったと思います。これからは、「速さ」よりも「強さ」を鍛え、チーム全体に磨きをかけていきたいです。



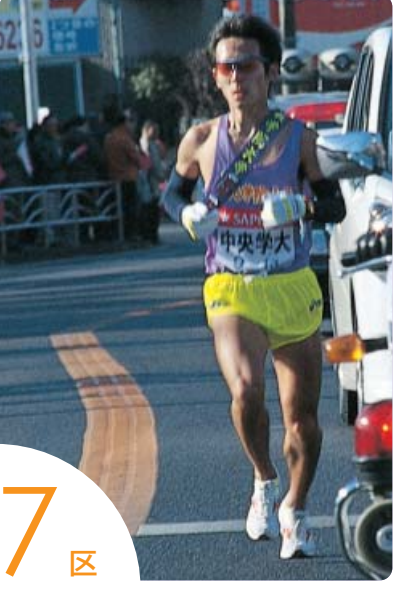
**10区**  
篠藤 淳 商学部2年  
箱根駅伝での失敗は箱根駅伝で取り戻す  
10区という重要なコースを任せられたことをふまえて、自分の役割をしっかりと果たそうという気持ちで挑みました。しかし、ウォーミングアップの時点では調子は良かったのですが、走り出すと体が思うように動かず、さらに都心に入ってから強い向かい風もあって、思うような走りができなかった。箱根駅伝での失敗は、箱根駅伝で取り戻したい。今後は、他大学のエースと戦える力をも身につけ、エースとして認められるだけの自信と覚悟を備えたいと思っています。



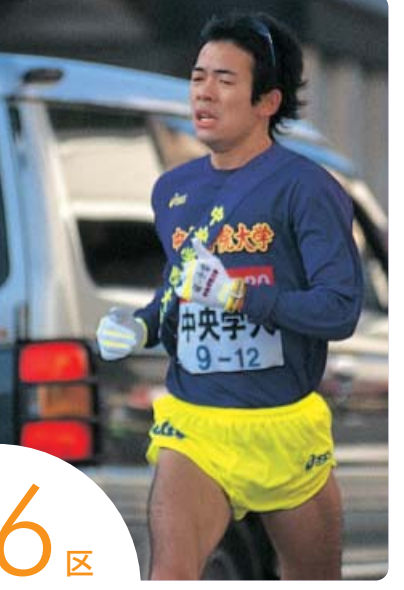
**9区**  
江藤 裕也 主将 商学部4年  
後輩に自分がやってきたことを伝えたい  
毎年、駅伝を楽しみに見てくれる人達の期待に応えられず、悔しい気持ちでいっぱいです。今年、主将としては昨年以上の順位を狙えるようチームをまとめていくこと、選手としては前半に詰めて後半に持ちこたえることが目標でした。結果として4年生としては物足りない、いえ、情けないものとなってしまいました。しかし、駅伝が終わったからといって、まだ引退ではありません。卒業までの日々、自分のやってきたことや考えを後輩に伝え、来年に託したいと思います。



**8区**  
杉本 芳規 商学部4年  
ベストのコンディションで挑んだ逆転劇  
1年間、この日のために頑張ってきたという思いもあり、気力、体力ともにベストのコンディションで臨みました。監督からの指示は、往路のシロを挽回してシード権を獲得すること。目標のペースも、そのために計算して設定されたものでした。本番は、少し波がありました。ほぼ目標通りに走ることができました。区間賞は狙ったのではなく、結果としてついてきたものです。陸上は卒業後も続けていきます。より高いレベルで活躍して、後輩への刺激になるように頑張ります。



**7区**  
池田 政輝 商学部2年  
この借りはしっかりと返す  
10位以内で杉本さんに襷を渡そうと思って試合に臨みました。ほぼ目標通りのペースで走ることができましたが、想定以上に他チームが速く、順位を上げることができませんでした。4年生の先輩にとって集大成の試合だったので、僕達2年生が不甲斐ない結果になってしまい、申し訳ない気持ちでいっぱいです。この借りは、しっかりと返したいと思います。来年からは、それがどれだけ励みになったかしれません。来年は4年生としての責任をしっかりと果たせるよう頑張ります。



**6区**  
天野 達也 商学部3年  
箱根の厳しさを改めて痛感  
イメージと実際の走りの間にズレを感じて、試行錯誤を繰り返してきましたが、段々と動きが良くなってきていたので、「いける」と信じていました。でも結局、力みが出てしまったようです。迷いを残したまま戦えるほど、箱根が甘くないことを改めて痛感しています。沿道では、山中にもかかわらず、どの大学よりも多くの人が黄色の旗を振って応援してくれました。それがどれだけ励みになったかしれません。来年は4年生としての責任をしっかりと果たせるよう頑張ります。

**復路 結果概要**

復路の反撃——8区区間賞もシード権届かず

起死回生への厳しい挑戦となった復路は、朝8時10分に4チーム一斉のスタートとなりました。6区は2年連続の挑戦となった天野君(3年)。見えないシード権を追いかけるプレッシャーから、なかなか本来の走りができずに苦戦。それでも区間12位と健闘しました。7区の池田君(2年)は当日のエントリー変更により出走。目標ペースを堅実に走り抜き、杉本君(4年)へ一転反撃の希望を繋ぎました。これを受け、「気力、体力ともに万全だった」と試合後に語った杉本君は、大任を全うして快走。本学2つ目の区間賞を獲得しました。9区はシード権争いが見え隠れするなかで江藤君(4年)が力走。主将として、攻めの姿勢を最後まで貫き区間6位と健闘し、中継所通過順位を2つ上げて15位としました。アンカーは昨年3区で快走を演じた篠藤君(2年)。しかし、混戦が混戦を呼ぶレース展開のなかで、本来の実力を発揮できず、逆転を果たすことは叶いませんでした。レース後、川崎監督は「結果は結果として厳粛に受け止め、次に向けて新しいスタートを切ろう」と、選手に語りかけました。

**往路 結果概要**

本学初の区間賞で順調な滑り出し

例年に比べてスローペースとなった1区は、箱根初出場の木原君(1年)。監督からの指示は「最後まで先頭から離れるな」。木原君はその通り走り抜き、ラスト1.5km付近でトップへ飛び出して本学初の区間賞に輝きました。華の2区を受け持ったのは副将の信田君(4年)。強豪選手がひしめくなか、ねばり強く区間6位で走り、4位で襷を繋ぎました。受け取った木村君(2年)は、直前の練習では好調な走りを見せていましたが、波に乗りきれぬまま後退。「実力ある選手でも雰囲気にもまれてしまうことがあるのが箱根の恐さ。特に今年の3区は花形選手が集まっていたうえ、好順位で襷が回ってきたこともプレッシャーになったのかもしれない」と尾上コーチ。4区の松浦君(2年)は故障続きで12月の箱根エントリー直前からメンバー入りした選手。その影響もあってか苦しい戦いとなりましたが、走り切ったのは伊藤君(2年)へ。2度目の5区挑戦となった伊藤君は、距離が延長された山上りコースを力強く走り抜き、ひとつ順位を上げて翌日へ希望を託しました。

駅伝戦国時代に新たな決意——

健闘するも総合17位

第82回東京箱根間往復大学駅伝競走(東京大手町~箱根芦ノ湖往復、10区間=217.9km)は、平成18年1月2日と3日、シード校10校、予選会通過の9校、関東学連選抜の計20チームで争われた。

戦国駅伝と言われていた今大会。駅伝ファンで埋め尽くされた大手町のゴールに真っ先に飛び込んできたのは亜細亜大学で、大激戦を象徴する結果となった。4年連続7回目の出場となった本学は、先頭集団でレースを展開する場面もあったが、残念ながら総合17位(往路18位、復路8位)となり、2年連続のシード権獲得には至らなかった。しかし、その一方で1区木原君と8区杉本君の2人のランナーが中央学院大学史上初となる区間賞を獲得し、輝かしい実績を残した。2人の活躍ぶりは、来年の大会での上位奪回に向けた大きな布石となることだろう。

「練習でやってきたことが、本番で出せなかったのが今年の弱さ。結果を真摯に受け止めて、部員全員で反省し、3年生以下は新しいチームづくりを考えていってほしい。」(江藤君)

学生駅伝戦国時代のなかで中央学院大学の新たな挑戦が始まった。

総合順位	大学名	総合記録	総合順位	大学名	総合記録
1位	亜細亜大学	11時間09分26秒	11位	城西大学	11時間16分10秒
2位	山梨学院大学	11時間11分06秒	12位	大東文化大学	11時間17分52秒
3位	日本大学	11時間11分53秒	13位	早稲田大学	11時間19分10秒
4位	順天堂大学	11時間12分07秒	14位	國學院大学	11時間21分03秒
5位	駒澤大学	11時間12分42秒	15位	専修大学	11時間21分40秒
6位	東海大学	11時間12分45秒	16位	神奈川大学	11時間21分59秒
7位	法政大学	11時間14分17秒	17位	中央学院大学	11時間22分22秒
8位	中央大学	11時間15分02秒	18位	明治大学	11時間27分38秒
9位	日本体育大学	11時間15分59秒	19位	国士舘大学	11時間33分02秒
10位	東洋大学	11時間16分00秒	オ-フ	関東学連選抜	11時間29分10秒

区間	選手名	記録(区間順位)
1区(21.4km)	木原 真佐人 商学部1年	1:03'42" (1位)
2区(23.2km)	信田 雄一 商学部4年	1:09'37" (6位)
3区(21.5km)	木村 聡寿 商学部2年	1:09'05" (20位)
4区(18.5km)	松浦 貴之 商学部2年	0:58'51" (19位)
5区(23.4km)	伊藤 達志 法学部2年	1:23'19" (14位)
6区(20.8km)	天野 達也 商学部3年	1:00'55" (12位)
7区(21.3km)	池田 政輝 商学部2年	1:06'32" (18位)
8区(21.5km)	杉本 芳規 商学部4年	1:04'48" (1位)
9区(23.2km)	江藤 裕也 商学部4年	1:10'45" (6位)
10区(23.1km)	篠藤 淳 商学部2年	1:14'48" (16位)

総合16位	11時間38分35秒
-------	------------

総合12位	11時間34分10秒
-------	------------

総合13位	11時間38分18秒
-------	------------

総合10位	11時間17分33秒
-------	------------

総合11位	11時間23分58秒
-------	------------

総合9位	11時間14分35秒
------	------------

箱根駅伝 4年連続7回目  
第82回東京箱根間往復大学駅伝競走  
2006. 1. 2 + 3

